



88120151



JAPANESE A1 – STANDARD LEVEL – PAPER 1
JAPONAIS A1 – NIVEAU MOYEN – ÉPREUVE 1
JAPONÉS A1 – NIVEL MEDIO – PRUEBA 1

Tuesday 13 November 2012 (morning)
Mardi 13 novembre 2012 (matin)
Martes 13 de noviembre de 2012 (mañana)

1 hour 30 minutes / 1 heure 30 minutes / 1 hora 30 minutos

INSTRUCTIONS TO CANDIDATES

- Do not open this examination paper until instructed to do so.
- Write a commentary on one passage only. It is not compulsory for you to respond directly to the guiding questions provided. However, you may use them if you wish.
- The maximum mark for this examination paper is *[25 marks]*.

INSTRUCTIONS DESTINÉES AUX CANDIDATS

- N'ouvrez pas cette épreuve avant d'y être autorisé(e).
- Rédigez un commentaire sur un seul des passages. Le commentaire ne doit pas nécessairement répondre aux questions d'orientation fournies. Vous pouvez toutefois les utiliser si vous le désirez.
- Le nombre maximum de points pour cette épreuve d'examen est *[25 points]*.

INSTRUCCIONES PARA LOS ALUMNOS

- No abra esta prueba hasta que se lo autoricen.
- Escriba un comentario sobre un solo fragmento. No es obligatorio responder directamente a las preguntas que se ofrecen a modo de guía. Sin embargo, puede usarlas si lo desea.
- La puntuación máxima para esta prueba de examen es *[25 puntos]*.

次の 1 の文章と 2 の詩のうち、どちらか一つを選んでコメントリー(解説文)を書きなさい。

1.

こどものときから、忘れてはいけない、忘れてはいけない、と教えられ、忘れたと言つては叱られてきた。そのせいもあって、忘れることに恐怖心をいだき続けている。悪いときめてしまう。

5 学校が忘れるな、よく覚えろ、と命じるのは、それなりの理由がある。教室は知識を与える。知識をふやすのを目標にする。せつかく与えたものを片端から、捨ててしまつては困る。よく覚えておけ。覚えているかどうか、ときどき試験をして調べる。覚えていなければ減点して警告する。点はいい方がいいにきまつているから、みんな知らず知らずのうちに、忘れるのをこわがるようになる。

10 教育程度が高くなればなるほど、そして、頭がいいと言われれば、言われるほど、知識をたくさんもっている。つまり、忘れないでいるものが多い。頭の優秀さは、記憶力の優秀さと同じ意味をもっている。それで、生き字引というような人間ができる。

ここで、われわれの頭を、どう考えるかが、問題である。

これまでの教育では、人間の頭脳を、倉庫のようなものだと見てきた。知識をどんどん蓄積する。倉庫は大きければ大きいほどよるしい。中にたくさんのもものが詰つていればいるほど結構だとなる。

15 せつかく蓄積しようとしている一方から、どんどんものがなくなつて行つたりしてはことだから、忘れるな、が合言葉になる。ときどき在庫検査をして、なくなつていないかどうかをチェックする。それがテストである。

20 倉庫としての頭にとっては、忘却は敵である。博識は学問のある証拠であつた。ところが、こういう人間頭脳にとつておそろべき敵があらわれた。コンピューターである。これが倉庫としてはすばらしい機能をもっている。いったん入れたものは決して失わない。必要なときには、さつと、引き出すことができる。整理も完全である。

コンピューターの出現、普及にともなつて、人間の頭を倉庫として使うことに、疑問がわいてきた。コンピューター人間をこしらえていたのでは、本もののコンピューターにかなうわけがない。

25 そこでようやく創造的人間ということが問題になつてきた。コンピューターのできないことをしなくては、というのである。

人間の頭はこれからも、一部は倉庫の役をはたし続けなくてはならないだろうが、それだけではいけない。新しいことを考え出す工場でなくてはならない。倉庫なら、入れたものを紛失しないようにしておけばいいが、ものを作り出すには、そういう保存保管の能力だけではしかた

30 がない。

だいいち、工場にやたらなものが入っているのは作業能率が悪い。よけいなものは処分して広々としたスペースをとる必要がある。それかと言つて、すべてのものをすててしまつては仕事にならない。整理が大事になる。

倉庫にだつて整理は欠かせないが、それはあるものを順序よく並べる整理である。それ

35 対して、工場内の整理は、作業のじやまになるものをとり除く整理である。

この工場の整理に当たることをするのが、忘却である。人間の頭を倉庫としてみれば、危険視される忘却だが、工場として能率をよくしようと思えば、どんどん忘れてやらなくてはいけない。

そのことが、今の人間にはよくわかっていない。それで工場の中を倉庫のようにして喜んでい

40 コンピューターには、こういう忘却ができないのである。コンピューターには倉庫に専念させ、人間の頭は、知的工場に重点をおくようにするのが、これからの方向でなくてはならない。

(外山滋比古 『思考の整理学』 一九八三年)

(注)

生き字引 経験を積み、良く物事を知っている人。

- － 「知識」はどのようなものとして描かれていますか。
- － コンピューターの出現はどのような変化をもたらしましたか。またそれを効果的に表現するためにどのような工夫がなされていますか。
- － 工場と倉庫との関係はどのように表現されていますか。
- － 説得力を出すための文体上の工夫について解説下さい。

2.

南南東

雲が自分の影を
見下ろすふうに引き連れて
湖を
渡つてゆくと
5 水鳥は
光る波の一つ一つに
胸を当てようとする

雲の影で色が変わること
水鳥のつくる小さな波さえ
10 過ぎて行くあいさつなのを
水面は
知っている

雲の影が
雲の知らないかすかな匂いを
15 持っていることも

(木坂涼 「南南東」 『南南東』 一九八九年)

- － 雲と湖の関係と、その表現方法について解説しなさい。
- － この詩には、どのような感情が表現されていますか。
- － 視覚的効果について解説しなさい。
- － 「南南東」というタイトルの果たす役割は何ですか。